

提携米通信

2010年11月号・黒瀬農舎発



秋田国際ダリア園にて／元新党さきがけ代表 武村さん

稲刈りをやっと終わりました。

我が家の稲刈りが本格化した10月は数日おきに雨が降り、稲刈りの終了はのび延びで10月23日までかかりました。

そして、稲刈りを終えてみると残念ながら「今年はやっぱり不作」でした。

また見掛けの品質は、茶や黒色の粒が僅かですが散見されます。猛暑による生理障害とカメムシが原因です。これら着色粒は「玄米」利用の場合は、除去できませんので、気になる方は、お手数ですが洗米の時に取り除いて下さるようお願いいたします。

一方、味は、幸いにも平年並が確保できたようです。これは、猛暑によって、ご飯の「粘り」に悪影響を与えるアミロースの蓄積が抑えられた結果のようです。

このように、今年の猛暑は、収穫量と見掛けの品質は落ちましたが、味の大きな決め手である「粘り」が落ちなかったことは不幸中の幸いです。

上の写真に写っているのは細川政権や村山政権時代に活躍された元さきがけ代表の武村正義さんです。10年近く前に体調を崩して政界の第一線を退かれたが、最近では元気になり日々ご多忙のご様子。同郷の縁で時たま我が家に遊びに来られます。今回は鳥海山の紅葉狩り希望で空港に迎えた折に寄った日本一の秋田国際ダリア園です。

ここの驚沢オーナーによると「ダリアの原産は南米の冷涼な山地。関東以南では真夏は生育が止まる。でも冷涼な秋田では7月から11月まで絶え間なく花が愉しめる。ところが、今年は猛暑で8月、9月の2ヶ月間花が咲かずビックリ仰天。」と言う。

我が家も大輪のダリアを数株庭で育てていますが、今年の夏は休戦でした。

今年の悪天候はこのようにどの作物も大弱り、おまけに10月26日には早々とミゾレが降るといふ寒波到来です。でも何とか無事に収穫も終わりました。新米以降のご利用ご支援も宜しくお願い致します。

提携米 黒瀬農舎

☎010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・喜多

TEL 0185-45-3086 FAX 0185-45-2887



☆お餅などのご予約ありがとうございました。
お餅は、ご指定のない限り十一月下旬から年末までのお米と同送します。

E-mail : akita@kurose.com <http://www.kurose.com>

☆お正月中のお米は、正月休みのため年末に繰上発送させて頂きます。ご了承下さい。

所得補償農政で日本農村大混乱



孫たちとミニカボチャ／農舎玄関にて

所得補償農政が発足して初めての秋を迎えた農村現場の状況を報告します。

本来なら、新政策が発足すれば、一時でも農村に明るさが出るのが普通です。ところが、今年の秋は、所得補償政策によって日本中の農村は逆に暗くなり、農民は虚脱状態です。

一般米の卸売り市場価格は記録的な大暴落。その上農業の先行きが見えなくなったなど次の2つの状況が現れ混乱しています。

①元々米余りの中で、面積に応じて定額の所得補償金を参加農家にくまなく配る。その上、米価が下がれば、その差額を全額追加所得補償する。という仕組みの所得補償政策の発足で全国的に米の生産が増え供給過剰が加熱。米市場大混乱。大暴落。

②各地の農協が「所得補償農政によって、米の生産が増えるから、自分の農協の米が売れ残れば大変だ。」もう一つは「米の値段が下がっても、差額の追加所得補償金が出る。」として、米市場に安値で米を売り急ぐ競争が全国的規模で発生。

これらの問題は春先に私たちが指摘していたことです。しかし、そうだとでも参加農民には所得補償されるのですから、米価が下がっても、農民が混乱したり、まして虚脱状態になるような実害はないはずで。

また、稲作農民は、毎年秋には、少々不作の年であっても、一年の仕事^なを成し^と遂げた誇りや充足感など「収穫の秋の喜び」を感じるものでした。

ところが、今年は農民の誰も^さが^きあ^ません。この制度に参加した農民は、次の要約意見のように意欲を無くし、混乱とモラルハザードの嵐が農村に吹き荒れています。

所得報償政策に期待したが、この制度によって一般米は空前の大暴落だ。従来の流通の枠組みもズブズブになり、将来展望も見えなくなった。結局は、民主党の一時の票集めと、FTAやTPPなど貿易自由化の対応策の一環だったようだ。

米価暴落の補償を将来的にも続けてくれるとは思えず、また、参加を拒否することもできず八方ふさがりだ。^だま^らされた^{よう}で農業への夢も希望も失せてきた。

暴落した米価の損失は、追加所得補償金が与えられますが、健全な思考感覚が残っている農民にとっては、これは、自分の仕事^つが^なが社会貢献できず、逆に、税金で保護されたという惨めな思いを抱かせることに繋が^り、益々虚脱感が増すようです。

また、この所得補償政策は、「悪貨が良貨を駆逐する」のと同様に、農村全体を蝕^むみ、この（悪）制度に参加しない農（良）民の経営基盤も脅かすことも問題です。

上の写真：我が家のミニ南瓜／妻の喜多と2人の孫：今年我が家ではジャンボ南瓜を作りました。ジャンボ南瓜は北米産の飼料用品種で、我が村ではジャンボ南瓜大会が毎年行われます。入賞すると全国大会に出場でき、それに入賞するとアメリカでの世界大会に出られます。毎年入賞は500Kgから1トンクラスです。でも我が家のは約50Kgのミニサイズ。